

◆全県(東北)商工会特産品フェア
 ◆秋田県種苗交換会◆住宅施設フェア◆ドッグショー◆全国犬サミット◆秋田犬展覧会の世界大会◆全国太鼓フェスティバル◆全国あめつこ実演大会◆今まで呼ぶことのできなかった著名な歌手のコンサート◆模型飛行機大会◆マーチングフェスティバル◆小学生ミニオリンピック◆室内陸上競技大会(冬季) など

周辺施設を利用したイベントの提案

◆林間学校◆市民パーティ◆野外コンサート◆ソリ大会(芝生の丘を利用)◆ラジコン船競技会(池を利用)◆雪合戦大会◆菓箱コンクール◆体験学習「私の木」

市民参加イベントの提案

◆市民自由利用デー◆冬季間のアスレチック施設設置◆ニュースポーツ大会◆園民ジョギング教室大会◆スケートボード教室◆ロープクライド教室◆ドーム杯のスポーツ大会(サッカー、ラグビー、ゲートボール、ソフトボール等)
 ◆お化け屋敷、忍者屋敷◆ドームのクリスマス会◆ドミノ倒し◆人文字コンテスト など

ドーム利活用

に当たつての課題

▼見学者のために、ドーム施設を見せるだけでなく、ドームがで

きるまでの写真パネルや屋根材として使用している秋田杉大断面集成材の実物など、ドーム建設に関する展示コーナーを。

▼専任コンパニオンの配置を。

▼最近、観光地でのトイレ施設が、建物のユニークさや清潔感などで注目されている。ドーム及び周辺施設のトイレは常に清潔に。

▼ドーム及びパークセンターの見学者は毎日あるので、行事の開催日や休館日でも見学や食事が自由に行えるようにするべき。

▼観水公園、森の中、あるいはドームの中で飲食できるよう、ドームにはハンバーガーやアイスクリームといったファーストフードショップ的なものを。

▼夜間はドームをライトアップしてはどうか。それによってここが大館の新たな所になり、夜も観光客を誘引することができる。

▼観光産業の拠点として、ドーム周辺地域の総合的な整備計画を早急に策定するべき。

▼ドーム周辺に観光客を誘引するための施設を設置するべき。例えば大館市周辺の特産品の販売所や曲げわっぱ製作体験館、きりたんぼ村、秋田犬館などを一堂に集めた観光物産館の設置を。

▼ドームを中継点とした大館周辺の観光ルート作りを。

▼観光客が増える東北3大まつりの時期に合わせ、ドームでの新たなイベントを創出するべき。

▼観光オフシーズンにドームで冬季イベントを開催して誘客するべき。

▼ドームのイベント情報は、観光エージェントや情報誌などに常時周知するべき。また、東北3県にも常時イベント情報と利活用についてのPRを。

▼ドームのPRのため、マスコミトや愛称の選定を。

▼観光客が大館周辺市町村に入ってからドームへ至るまでの案内板を、一目で分かるようユニークな形で作って欲しい。

▼大きな大会やイベントが行われる場合には宿泊施設が不足。宿泊施設を併設するべき。

▼複数の団体に貸館する場合、アリーナ内を区切れるようにしなければならぬ。

▼5,000人以上のイベントを実施する場合、観客の輸送や駐車場をどのように確保するか早期の検討が必要。例えばシャトルバスや小坂鉄道の運行など。

▼敷地全体の魅力アップのためにはドームだけではインパクト不足なので、森の中に有名な彫刻家の作品を置くなど、他にはない付加価値を付けるべき。

▼公園の一部を利用してドライブングシアターを設けてはどうか。

▼広葉樹の森にはピクニックできる場所が必要。

▼広葉樹の森の前には、森の中に植生している広葉樹を説明する

案内板を設置するべき。

▼ドームでニュースポーツを生み出す等の意欲並びに創意工夫を。記録を主とした種目は、ドーム利用の中で公認されるか疑問。

▼スポーツ器具を含め、メンテナンスに即応できるように体制を。

▼冬季にスパイクを履いての陸上競技練習ができればすばらしいことである。300名アンツーカーコース、ハードル、跳躍競技種目対応備品の備え付けを。

▼ウエイトトレーニング器具をそろえ、専任トレーナーの配置を。

▼甲子園への夢は、ドームの活用にかかっていると、言っても過言ではない。特に冬期間の練習が

世界一のドームを生かすには

木造では世界最大となる大館地区多目的ドーム。多目的利用が可能なドーム施設としてこれほど巨大な規模を持つものは間違いなく東北で唯一であり、当然、大館をはじめとした周辺市町村民からは待望の声が高くなっています。

しかし、あえてそこに疑問を投げかけたかと思えます。現在、多くの住民のドームに対する姿勢は「楽しみにして『待つ』」といったものではないでしょうか。

住民の皆さんの要望により、県や市が築き上げるドーム施設。しかし、行政が一人相撲をとるのではいけません。完成後のドームの

重要であるので、ピッチングマシーン、バッティングマシンを各2台以上備え付けて欲しい。

▼人工芝は金具の野球スパイク使用が可能なものに。専用スパイクが必要となれば、ドームの利用は困難。

▼県、市、各団体では、イベント等の誘致運動を今から行うべき。

▼完成記念事業は、完成後1年間を期間とし、スポーツ、コンサート、コンベンション等、2、3のジャンルで実施するべき。

▼東北エリアの活性化、情報交換等の活発化を目指し、市町村間でイベントなどの協力開催の可能性を早急に模索していくべき。

活用は皆さんの手に委ねられるのです。施設自体は世界一のものから、皆さんには、世界一の器に見合う使い方をしなければならぬ責任も課せられるのです。もう、他人ごとではありません。

ドームは、活用しただいでは大館地区の飛躍的な発展につながるものです。しかし、逆を言えば、使い方を間違えれば数年後にはさびれた姿をさらす赤字施設になる危険もある、ということなのです。

まさに今、住民の意欲が試されているというわけです。そこをきっちり理解しておく必要があるのではないのでしょうか。